

入賞

一般建築物の部

建築主：吉野 路子
設計：株式会社NLデザイン設計室
施工：有限会社津内ホームテクノ
所在地：習志野市津田沼5-10-9

～街と人をつなぐ。商店街が生まれ変わるきっかけになる～

MICHIYA

対象地は習志野市の駅前商店街の入口にある。明治から150年続く商家の建物を建主が引き継ぐことになったことから10年前に改修計画が始まる。周辺の商店は商売を諦め、賃貸ビル等に建て替えが進み、商店街の活気がなくなりつつあった。商店街のアーケードは天候によらず街の人が行き交い賑わっていたはずだが、老朽化と商店の減少で存在意義を失っていた。だが、建物改修に合わせてアーケードを撤去することで建物外観が現れ、街の人々が目をむけることとなった。

建物は分棟形式に整理し、通りに面した外壁をセットバックした。軒下空間が建物の間で連続することで、通りから敷地内に



改修後の様子・近景



室内の様子

路地ができた。路地を常に開放するのは難しい面もあるようだが、建物をレンタルルームに活用し、路地でイベントが行われるなど、かつてのアーケードの役割の一旦を担えるような、街の人も立ち寄れる場所となっている。

受け継がなければ変わってしまう状況から、受け継ぐことで生まれる、小さな取り組みの積み重ねが今も続いている。この10年で生まれた「街と人と建物のつながり」を評価したい。軒下空間や路地の更なる活用を継続し、街の人々を巻き込みながら記憶に残る新たな商店街の顔となることを期待している。

(藤本 香)

(撮影全て：丹羽 修)

入賞

住宅の部

建築主：有限会社イセウ
設計：Sデザインファーム株式会社
施工：株式会社小原建設
所在地：松戸市緑ヶ丘2-350

～既存ストック活用のあり方提案～

ReISEU 3 BLD.

駅近の賃貸共同住宅という立地条件ながら、あえて床面積を削減するという不動産的には「逆の発想」を選択している点が興味深い。この減築によって耐震性の向上を図るアプローチは、当時の構造計算書が現存していたという幸運も重なり、精度の高い構造検討に基づいた説得力のある改修計画へと繋がっている。

また、予算の制約の中で断熱性能をいかに担保するかという課題に対し、居住エリアを限定して手を入れる手法でコスト削減に苦心した跡が見て取れる。こうして生まれた吹き抜け空間は、借り手の自由な発想や多様なライフスタイルを引き出す契機として機能している。

一方で、建物の安全性という観点では、解体後の表面の仕上げの荒さや、新設された吹き抜け周辺の安全対策において依然として課題を残している。

また、庭が前面道路に面しない構成上、屋外空間とまちとの視覚的・機能的な連続性は希薄であるが、住まい手による自由な使いこなしを許容している。

人口減少が進む郊外における既存ストック活用のあり方を、現実的な制約の中から鮮やかに提示しており、既存ストックのポテンシャルを構造・熱環境・空間の自由度という多角的な視点から再構築した、示唆に富む実践である。

(久富 清敏)

(撮影全て：鳥村 鋼一)



キッチン住戸の吹き抜け



外観